

愛恵だより

第 6 号

2020 年 8 月 1 日発行

発行：公益財団法人 愛恵福祉支援財団
〒114-0015 東京都北区中里 2-6-1 愛恵ビル5F
電話：03-5961-9711(代) / FAX：03-5961-9712
<http://www.aikei-fukushi.org/>

「愛恵」の題字は初代理事長 三吉 保 氏による

「消えてはならないもの」



公益財団法人 愛恵福祉支援財団
評議員 上 田 健

今回、全世界の人々が国・年齢・性別・貧富の差や職業・経歴の有無に関係なく、新型コロナウイルスの脅威に晒され、「見えない敵との闘い」に巻き込まれました。このウイルスの直径は0.1マイクロメートルであり、1ミリメートルの間に1万個が並ぶことができる程微小なものです。人間の肉眼では認識できず、何時、何処に、どれ程存在するのか全く分かりません。しかし、感染すると人によっては発熱、肺炎（呼吸困難）、更に死に陥れる狂暴な敵である実態を見せつけられました。同時に、このウイルスはヒト・ヒト感染であり社会人である限り感染する可能性がある事も判明しました。急激な感染拡大は、人々の不安を駆り立て、日本でも「緊急事態宣言」が発出されました。これに伴い本格的に感染拡大の阻止が国民の優先課題となり、順守すべき事項が示されました。すなわち、「手洗い励行」「不要不急な外出自粛」「3密の順守」「換気の悪い密室空間」「多数が集まる密集場所」「間近で会話や発生をする密接場面」は出来るだけ避ける）等です。これらの課題実施のため、「ソーシャル・ディスタンス（社会的間隔・6フィート＝1.8メートル）」や「人との接触80%減」「濃厚接触注意（1.5メートル、15分間）」等の言葉や実際的な数字まで示され、他人との接触を避けることが基本的対応となりました。

私どもは高齢者福祉や身体障害者の介護現場で働いています。介護は「排泄」「食事」「入浴」「体位交換」「清拭」「起床・就寝」「着替え」「移動」「服薬」「外出」「整容」等の生活支援・介助を専らとします。最後に挙げた「整容」は、洗顔・歯磨き・整髪・爪切り・耳かき・髭剃り等の介助です。

「整容」はその人の外見や姿を整える介助ですが、同時にその人の尊厳を支え自尊心を整える介助でもあります。どれ一つとして傍に立って、指示し声掛けだけで済むものではありません。介助者はその人の手となり足となり目となって、顔と顔、目と目を合わせ、呼吸を合わせ、心を合わせて行う業務です。その人の身心に寄り添うことが介護の基本です。先に挙げた各介助は「密閉」「密接」、時に（しばしば）「密集」の場で行われます。そこは、提供する側と受ける側との連帯の場であり、種々のリスクに対しても互いに運命共同体となる場です。医療の現場は介護現場に増して厳しく、病を負い生死をさ迷う人への看護支援です。看護や介護は人間の存在を危機状況において必要とされる「人間の人間による人間のため」のヒューマンサービスであり、中止や休業は出来ません。自宅での「テレワーク」はもとより出勤自粛や勤務時間短縮も、慢性的人材不足を抱えている医療や介護現場ではほぼ不可能です。

職員は、この生活の場での「3密」と、業務現場での「3密」との矛盾を自覚し、業務の「3密」逆行に戸惑いながらも、医療・介護従事者としての役割と使命を果たすため頑張っています。医療崩壊の懸念が叫ばれていますが、介護崩壊も決してあり得ない話ではありません。実際、今回米国やカナダでは、「老人ホーム」の職員が出勤を拒み、介護が手薄になるどころか食事のままならない施設や、60人以上が感染した施設も出ました。「目に見えない敵との闘い」は、自分との闘いとなります。今回のような状況では己の心の中に潜む、不平・不満・自己中心や恐怖との戦いとなります。都市の盛り場から人影が消えましたが、医療や介護の現場から、いのちを敬い、いのちを愛し、いのちに仕える思いや使命感が消える事が無いように、励まし合い乗り切りたいと願う者です。

コロナウイルス禍を支援する

緊急助成金(上限50万円)を公募

新型コロナの感染防止策によって社会福祉活動の現場では多方面にわたって異常な状況が露呈されています。

感染防止の決定的な方法は人的な交流を避けることであり、日常の社会福祉活動に大きな支障をきたしています。

活動による収入が得られない。密着密接な介護ができない。必要な用品用具が入手できないなど、

命を預かる現場には緊急な事態が発生しています。

愛恵財団ではこの状況を重く見て緊急助成をすることといたしました。

財団の事業を一部見直すことを含めて2千万円の緊急助成金支給を公募します。

対応が急がれますので、公募期間を短くし、事態に即応7月より月毎に数か月間実施します。

施設見学会(2ヶ所)を実施

当財団では、民間福祉施設の向上を図るため、社会福祉に従事する職員の技術や資質の向上を目指して毎年施設見学会を実施しております。2019年度の施設見学会は、新型コロナ・ウィルスの流行前に2回実施しました。

第1回施設見学会

- 開催日 2019年7月10日(水)
- 見学施設 社会福祉法人賛育会「東京清風園」
東京都墨田区立花1-25-12
- 事業内容 特別養護老人ホーム(ユニット型・従来型)、
短期入所、グループホーム、ケアハウス、
デイサービス、居宅介護支援事業所
- 参加者 21名とスタッフ6名
- 東京清風園は墨田区の特養として38年の歴史があり、
地域とのつながりが深い。福祉の人材不足・外国人ス
タッフへの対応や教育が課題となっているが、「辞め
ない職場づくり」の工夫をし、また外国人留学生やス
タッフにも丁寧な指導をしている。様々なニーズに対
応する大所帯の複合施設であり、6年前に新築移転し
たので建物は広くきれいであり、居室も窓部分が広く
明るいことなど特徴的である。積極的に福祉機器を使
用し、職員の介護負担軽減に努めている。

<見学を終えて>

☆大きな施設だが、利用者・職員・地域社会に対して

細やかなことに留
意しているなど、
地域の中にある施
設として繋がりを
大切にしているこ
とが分かった。外
国人スタッフの言葉や機能訓練指導員の話が聞けて
良かった。



第2回施設見学会

- 開催日 2019年11月6日(水)
- 見学施設 社会福祉法人 章佑会「やすらぎリバー
シティ」
東京都葛飾区新小岩1-5-2
- 事業内容 就労継続支援B型・生活介護・特定相談
支援事業
- 参加者 10名とスタッフ4名
- ☆身体的・知的にも重
度の方から軽度の方
まで様々な利用者
を受け入れ、多くの苦
労があったことと思
うが、工夫しながら
運営をなさってきたことが理解、共有できた。切実な
課題を抱えており、質問もまた多く出た。



— できごと —

面 会 禁 止

愛恵福祉支援財団 評議員
坂 上 三 男

妻が認知症になって5年が過ぎた。必要があってもまだ車に乗っているが、助手席にいつもいて、私の話を聞く妻が今はいない。何処に行くにも寂しい。特に新型コロナウイルスの発症が起ってから妻が入所している特別養護老人ホームの面会が全面禁止になり、全く会うことさえできない。

このホームに入所できたのは1年程前である。それまではデイサービスなどを利用して何とか家で介護をしていたが、認知症が日増しに進み、在宅での介護は無理の段階になっていた。要介護状態が最高位に達した時、幸い申し込みをしていた特別養護老人ホームから入所可能という知らせが来た。

特養に入所が決まった時は心底有難いと思った。そ

れからは毎日のように面会を続けていたが、今や面会ができない。面会のお勤めがなくなり、私の心に空洞が出来てしまった。面会は私にとって生きがいになっていたのだ。介護は大変であったが、同時に生きる意味を与えてくれていたことがよく分かった。今までは介護の大変さで、不満の多い生活であったが、何もできない現状よりも生活が充実していたと思う。このコロナウイルス騒ぎがいつまで続くか分からないが、終息したならば今まで以上に面会に行き、私のできる限りの介護に努めたいと思っている。今まで大変、面倒だと思っていたことが、それを果たすことによって生きる充実感が得られていたことを、この度の面会禁止によって教えられた。

2019年度 第21回 愛恵エッセイ賞決定



福祉意識の涵養のため、広く国民各層から助け合い、支え合いながら、“豊かな福祉社会を創るために”どんな体験・経験されたか～わたしらしく、あなたらしく～を中心テーマにしてエッセイを公募いたしました。

2019年度は、新型コロナ・ウィルス感染防止のために2020年2月28日に予定されていた表彰式ならびに「福祉講演会」は中止となりました。

236件の応募（学生92、専門職16、一般128）があり、受賞者につきましては、「受賞作品集」に掲載するとともに、当財団から賞状と副賞を送らせていただきました。詳しくは左掲作品集を参照してください。

学 生 の 部	最優秀賞（1）、優秀賞（3）佳作（3）、奨励賞（1）
専門職の部	最優秀賞（1）、優秀賞（2）佳作（1）
一 般 の 部	最優秀賞（1）、優秀賞（2）佳作（2）、奨励賞（1）

公 開 講 座

本財団では、毎年常に新しい知識及び技術を習得し、社会活動の充実に寄与してもらうために、多様なテーマで広く一般に公開した講座・講習会を企画し実施しています。2019年度は下記テーマで2回実施しました。

第1回 公開講座 — 生と死についての講演Ⅲ —

- 開催日 2019年10月10日（木）
- 題 「日野原重明先生は死をどう生きたか」
- 講師 川越厚氏（在宅ホスピス歴25年の専門医）
- 場所 北とぴあスカイホール 75名参加
- シリーズⅠ「穏やかな死を迎えるために」2017.6.1
- シリーズⅡ「死を看取るために家族に必要なこと」2017.11.14

第2回 公開講座 — 石井十次賞受賞記念講演会 —

- 開催日 2019年12月10日（火）
- 題 「石井十次と私」
- 講師 阿部志郎氏（横須賀基督教社会館会長）
- 場所 野村証券東京支社研修センター 80名参加

両講演会のDVDを
貸し出します
事務局へ
お問い合わせください



2019年度 ペイン記念奨学生報告会

年額 100 万円を限度に授業料相当額を奨学金として給付されて2か年の大学院での研究を修了した13名の研究成果の報告会を開催した。さらに研究者として進学する者もいるが、2か年の修士課程を終え福祉の専門家として就職し活躍することは当財団の期待することである。選考委員からの研究成果についての助言と指導、今後の働きに向けての激励を十分生かして尽力されることを願っている。

日時 2020年2月18日(水) 13時から17時
場所 愛恵ビル 301会議室



助言・指導

ペイン奨学金選考委員

柴田 譲治 (金城学院大学大学院)
都築 光一 (東北福祉大学大学院)
李 善恵 (関西学院大学大学院)
遠藤 久江 (愛恵財団 理事)
河合 裕志 (愛恵財団 理事)

報 告 者

Kさん 神奈川県立保健福祉大学大学院

「乳幼児とその養育者を支援するシステムの研究」
～新たな家庭支援システムの創成に向けて～

Gさん 福岡県立大学大学院

「保育所の地域における公益的な取り組み」
～福岡県内の保育所を運営する社会福祉法人を対象として～

Tさん 東北福祉大学大学院

「子どもの最善の利益を構成する要素としての自己肯定感の形成に関する研究」

Mさん 関西学院大学大学院

「難民学生の日本における自己の捉え方」
～当事者の語りから紐解く探索的研究～

Kさん 関西学院大学大学院

「日本語通訳が必要な在留外国人母親の生活ニーズに関する研究」
～参加型アクションリサーチ CBPR を用いた社会資源開発～

Kさん 立教大学大学院博士課程

「デジタル労働に係る諸用語を整理し、概念規定を行うとともに、日本におけるプラットフォーム労働の

実態を明らかにし、今後の課題について考察する。」

Kさん 日本社会事業大学大学院

「長野県須坂市における保健補導員の役割に関する研究」
～高齢者福祉に関する機関・組織との関わりを中心に～

Hさん 関東学院大学大学院

「ライフストーリーから読み解く児童養護施設の中の外国にルーツをもつ子どもの課題」

愛恵福祉支援財団 案内図

JR駒込駅 東口より徒歩2分
北区中里2-6-1 愛恵ビル5F
電話 03(5961)9711

